

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和4年12月分）

【製造業】

○製造業は、10月の鉱工業生産指数は前月比3.6%上昇となった。ヒアリングでは、価格転嫁は原材料価格上昇分の5割程度しかできておらず、価格転嫁できない分は企業努力でカバーするしかないとの声や、中国で新型コロナウイルス感染症が再拡大しており、部材輸入が滞っているため、国内のあらゆるメーカーの生産活動に影響が出始めているとの声が聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、10月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、食料品、家具、窯業・土石、パルプ・紙で低下した。ヒアリングでは、エネルギー費用が前年比2倍となっており、これまでは企業努力で価格を据え置きしていたが、状況が改善しないため1月より値上げに踏み切るとの声や、最近は為替相場の乱高下が激しく、安定的な受注の確保が困難な状況との声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、11月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲7.7%となった。ヒアリングでは、ソーラーパネル設置や照明のLED化など、SDGs関連の設備投資を積極的に行っていく予定との声が聞かれた一方で、物価高の影響や、ゼロゼロ融資の返済が開始することから、運転資金が切迫し、設備投資の案件が少なくなっているとの声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、11月の販売額は、ホームセンター、コンビニ、家電大型専門店で減少し、全体で前年同月比▲0.3%となった。ヒアリングでは、依然としてあらゆる仕入商品の値上げが相次いでおり、この影響はしばらく続くと見込んでいるとの声や、人流回復による売上回復を見込む一方で、物価高により価格転嫁が進むことで、客離れの懸念があるとの声が聞かれた。

【観光】

○観光は、11月の観光客数、宿泊者数は令和元年同月比▲7.5%、▲18.9%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、全国旅行支援のおかげで宿泊者が増加しているとの声や、外国人旅行客の増加や人材不足を補うため、外国人雇用を進めているとの声が聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、11月の制度融資実績は、件数、金額とも19ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、為替相場が安定しないことに対する影響を懸念する声や、ゼロゼロ融資の返済が開始するが、返済が困難な事業者には県制度融資を利用し支援していく方針との声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、11月の有効求人倍率は1.68倍と15ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、現在の新卒採用は売り手市場であり、人材が大企業に流れてしまい、中小企業では新卒の採用が困難になっているとの声や、物価高の中、更なる固定費の増加には慎重であり、非正規雇用を採用する事業者が見受けられるとの声が聞かれた。

【景気動向】

10月の景気動向指数（一致指数）は前月比2.1ポイント上昇、11月の中小企業の景況感と同8ポイント上昇となった。